

平成31年1月8日

報道機関 各位

産後うつと関連して対児愛着が悪くなる (エコチル調査より)

富山大学医学部公衆衛生学講座 土田暁子助手らのグループは、産後1か月時の母親の産後うつと子どもへの愛着指標を調べた結果、[産後うつと関連して対児愛着が悪くなる](#)ことを「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」から明らかにしました。

これまで、母親が子どもを大切に思う気持ち「対児愛着（ボンディング）」の障害は、産後うつ発症と同時に起こる例が多いことが知られていましたが、約76,000人の母親を対象に評価し検討したのは世界で初めてです。

この研究より、産後うつに対して早期の対応をすることによって、ボンディング障害を予防できる可能性が示唆されました。

この研究成果は精神医学系専門誌「Journal of Psychiatric Research」に2019年1月5日付で、オンライン掲載されました。





研究の内容

母親は出産後、自然とわが子に愛情を抱き世話をしたいという「対児愛着（ボンディング）」の感情を持つことが一般的です。しかし、自分が産んだ子どもを愛せない・世話をしたいと思えない「ボンディング障害」という症状に苦しむ人もおられます。このボンディング障害は虐待やネグレクトにつながり、子どもの成長や発達にも悪影響を与える場合があります。これまで、ボンディング障害は産後うつ発症と同時に起こる例が多いことが知られており、富山大学の研究グループは、エコチル調査に参加しているお母さん約 76,000 人の産後 1 か月時のボンディングと産後うつを評価し、関連を調べました。

ボンディングは、赤ちゃんへの気持ち質問票からの 5 つの質問項目を用いて評価しました。また、産後うつについてはエジンバラ産後うつ病質問票を用いて評価しました。まず、約 76,000 人の母親全員の赤ちゃんへの気持ち質問票の回答を基に、5 つの質問がどのような回答の傾向を示すか因子分析を用いて検討しました。その結果、2 つの質問からの回答が「育児不安」の傾向を、3 つの質問からの回答が「母親感情の欠如」を示すことが明らかになりました。そこで、ボンディングのこれらの指標と産後うつの指標の関連を調べたところ、「育児不安」と「母親感情の欠如」のいずれについても関連があることが明らかになりました。このことより、産後うつに対して早期の対応をすることによって、ボンディング障害を予防する可能性があることが示唆されました。

次に、2 回参加されている約 3,700 人で、ボンディングおよび産後うつの指標が、上の子と下の子の出産後でどう変化するかサブ解析を行いました。その結果、それぞれの総得点は、下の子の出産後で改善していました。また、「育児不安」、「母親感情の欠如」、を示す指標についても、下の子の出産後で改善していました。以上より、出産・育児経験を経たことでボンディングと産後うつの指標が改善し、とくに育児における「不安」の感情が和らぐことが示唆されました。このことから、初めての出産を迎える妊婦さんには出産前に赤ちゃんに触れ合う体験を増やすことで、育児不安を軽減できる可能性があると言えます。

しかしながら、本研究は実験的な研究ではなく、観察した研究であるため断言することはできません。今後は、産後うつへの早期介入や、初産婦さんや未婚の女性への育児体験プログラムを提供するといった研究を積み重ねて、さらに検証していく必要があります。

※本研究は、『Journal of Psychiatric Research』に 2019 年 1 月 5 日付でオンライン掲載されました。

Tsuchida A, Hamazaki K, Matsumura K, Miura K, Kasamatsu H, Inadera H, et al. Changes in the association between postpartum depression and mother-infant bonding by parity: Longitudinal results from the Japan Environment and Children's Study. *Journal of Psychiatric Research*. 2019;110:110-6.

<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0022395618304990>

ちょっと詳しく

ボンディングとは？

母親が子どもを愛し、世話したい、守りたいと思う情緒的絆のことを指し、一般的にボンディングと呼ばれます。この感情を評価するために、イギリスの研究者 Kumar と Marks らが「Mother-Infant Bonding Scale」を開発しました。各質問は赤ちゃんへの肯定的・否定的な気持ちを尋ねるもので、0, 1, 2, 3 点の 4 件法で回答し、各回答からの得点で評価します（点数が高いと否定的な感情が強いとみなします）。日本では、九州大学の吉田らが翻訳し、赤ちゃんへの気持ち質問票として確立しました。

赤ちゃんへの気持ち質問票

- 1) 赤ちゃんをいとおしいと感じる
- 2) 赤ちゃんのためにしないといけない事があるのに、おろおろしてどうしていいかわからない時がある
- 3) 赤ちゃんの事が腹立たしく嫌になる
- 4) 赤ちゃんに対して何も特別な気持ちがわからない
- 5) 赤ちゃんに対して怒りがこみあげる
- 6) 赤ちゃんの世話を楽しみながらしている
- 7) こんな子でなかったらなあと思う
- 8) 赤ちゃんを守ってあげたいと感じる
- 9) この子がいなかったらなあと思う
- 10) 赤ちゃんをととても身近に感じる

参考：公益財団法人 母子健康協会

http://www.glico.co.jp/boshi/futaba/no77/con01_03.htm

産後うつとは？

産後、10～15%の母親にうつ病の症状があるといわれ、とくに産後1か月ごろに多く発症すると言われています。エジンバラ産後うつ病質問票は、産後のうつ症状を簡便にスクリーニングするため開発された10項目からなる質問票です。赤ちゃんへの気持ち質問票と同様に0, 1, 2, 3 点の 4 件法で回答し、各回答からの得点で評価します（点数が高いと抑うつ的な感情が強いとみなします）。日本では、三重大学の岡野らが翻訳し、日本語版を確立しました。



【「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」とは】

子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ことを目的に平成 22 年度（2010 年度）に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが 13 歳になるまでの健康状態や生活習慣を平成 44 年度（2032 年度）まで追跡して調べることをとしています。

エコチル調査の実施は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された 15 の大学に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して行っています。

富山大学は、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町を調査地区とする「富山ユニットセンター」として本調査に参加しています。

- 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」WEB サイト
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>
- 富山大学 エコチル調査 WEB サイト
<http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>



（本件に関するお問い合わせ）

国立大学法人富山大学 医学部公衆衛生学講座

エコチル調査富山ユニットセンター 担当 土田暁子

TEL : 076-415-8850

Fax : 076-415-8843

E-mail : aktsuchi@med.u-toyama.ac.jp

（取材対応窓口、詳細の資料請求など）

国立大学法人富山大学 総務部 総務・広報課

TEL : 076-445-6028

Fax : 076-445-6063

E-mail : kouhou@u-toyama.ac.jp